

## 第 62 回 治療について（新春学長メール Vol.8）

おはようございます。  
長崎大学人、河野茂です。

今回の新型コロナ関連の最先端情報メッセージの最後は、新型コロナウイルス感染症対策担当の副学長泉川公一先生です。

-----  
新型コロナウイルス感染症の治療の最前線

～ゲームチェンジャーとなるか！？ 早期の投与が肝要です～  
泉川公一

オミクロン株の流行により皆さんも終わりの見えない闘いにうんざりしていることと思います。

しかし、良いニュースもあります。

新しい薬の登場です！そもそも、ウイルスは自分の力では増えることができず、皆さんの気道の細胞に侵入（感染）し、増殖します。

新しい薬は、(1)細胞に侵入させないようにウイルス表面に結合する抗体薬と、(2)細胞に侵入しても、細胞内で複製（増加）をさせない抗ウイルス薬の2つになります。

後者には、もともと、注射薬があり使用されてきましたが、今回は内服薬が登場しました。内服薬によって、今後、コロナの治療が、外来、自宅でできる可能性が出てきました。コロナ治療の大きな進歩と言えるでしょう。

しかし、敵もさることながら、抗体薬は(1)ソトロビマブ、(2)カシリビマブ・イムデビマブの2種類があるのですが、残念ながら、先行して登場した(2)はオミクロン株に無効ということが判明し、現在は、(1)のみが使用されています。

一方で、内服薬は、モルヌピラビルと呼ばれており臨床現場で使用されています。

現在のところ、いずれも、感染すると重症化するリスクのある方で、比較的軽症の方に投与できます。

さらに、発症後なるべく早く使用することが重要で、抗体薬は発症後7日以内、抗ウイルス薬は5日以内に投与しないといけません。

皆さんのなじみがあるインフルエンザ薬であるタミフル?も発症後 48 時間以内に服用すること、となっており注意が必要です。

今後のコロナ診療は、患者を早くみつけ、早めに治療し重症化を抑制することが医療逼迫を防ぐ最善の策となるでしょう。

さらに、内服薬については、今後、重症化や死亡を抑制する効果がさらに向上した新薬も近いうちに日本でも使用出来るようになりますし、リスクのない人たちや、治療だけではなく予防薬としても投与できる可能性もあります。

このように、新薬の登場で、コロナの治療が大きく変わろうとしています。

一方で、前述のようにデルタ株に効果があったのに、オミクロン株には効かなくなる薬もできました。

ウイルスも生き残りをかけて、必死で抵抗しているとも言えるでしょう。

しばらくは、薬剤やワクチンの開発とウイルスの変異競争が続くかもしれません。

薬の登場には大きく期待しつつも、いまは、基本的な感染対策を継続し感染者数を増やさないようにすることが大事です！

今年も頑張りましょう！

-----  
希望のある力強いメッセージを泉川先生、ありがとう。

今回、長崎大学の看板を背負って全国的に活躍する 4 名の先生方から、最先端の情報を提供いただきました。

学生、教職員の皆さんは、ぜひ、科学的な視点をもって、平常心で、日々を送っていただきたいと思います。

これから、感染拡大の状況により、様々なシステムの変更や予定の中止/延期が突然起こる可能性があります。

しかし、一喜一憂することなく、それぞれの進むべき道を冷静にみつめ、常に基本にたちかえり、できる範囲で、自分のためのみならず人のために全力を出してください。

そうすることで、長崎大学人のスピリッツが様々な人に継承され続けるでしょう。

いよいよ明日から (15 日、16 日)、大学入学共通テストです。尽力されている教職員の皆さんの頑張りに感謝いたします。

大変厳しい状況の中の実施が予想されますが、受験生が安心して試験にのぞめるように、が

んばりましょう。

来週は、皆さんから頂いた沢山のメールに対する私の感想を数回に分けて発信いたします。